



発行 公益社団法人  
武蔵野市シルバー人材センター  
編集 広報編集委員会  
武蔵野市西久保1-6-27  
多摩信用金庫武蔵野支店4階  
電話 0422-55-1231(代)  
URL <https://www.musashino-sc.or.jp/>

## 225(夏)号 もくじ

|                       |   |
|-----------------------|---|
| ◆ 令和4年度定時総会           | 1 |
| ◆ 新体制スタート             | 2 |
| ◆ 新広報編集委員紹介           | 3 |
| ◆ SC NOW              | 4 |
| ◆ 突撃レポート 現場へGO!       | 5 |
| ◆ 私のふるさと              | 6 |
| ◆ リレー・エッセイ/私のチャレンジ教室  | 7 |
| ◆ ひろば/交流会/新入会員紹介/編集後記 | 8 |

## 令和4年度 定時総会を開催

令和4年度の定時社員総会が6月21日(火)武蔵野公会堂1階ホールで開催されました。昨年同様、新型コロナウイルス(以下コロナ)感染防止対策として、少人数による社員総会となりました。13時30分、篠原理事から開会が告げられ、安達勝会長が挨拶。松下玲子市長の祝辞に続いて、永年会員表彰(20年10名、10年55名)が行われ、代表者に賞状と記念品が贈られました。引き続き役員表彰(加藤之義前会長、立松正通前理事の2名)が行われ、代表として昨年逝去された加藤前会長の奥様に賞状と記念品が贈られました。

続いて東京しごと財団理事長の挨拶を紹介し、定時社員総会に移りました。まず、議題に入る前に安達会長(仮議長)から出席者の確認が行われました。

有効会員数1,092名に対し、出席者44名、委任状と議決権行使書提出会員793名の合計837名となり、「構成員数の過半数を超えて、定款第18条1項を満たしており、適法に成立している」との報告がなされました。その後安達会長から議長選出の要請があり、議長に境地区の森田良國会員が指名され議題審議に入りました。

### ■ 報告事項

1. 監査報告:中野監事から「適正に処理されている」旨の報告
2. 令和3年度事業報告:中村事務局長から議案書該当部分に沿っての報告

### ■ 決議事項

1. 令和3年度計算書等の承認の件
2. 定款の一部変更の件
3. 理事6名(再任2名、新任4名)選任の件

いずれも中村事務局長から説明がなされ、質疑応答を経て承認可決されました。令和4年度の定時社員総会の幕を閉じました。

### ◎安達会長挨拶

コロナ禍であり、引き続き緊張感を持って対応してい

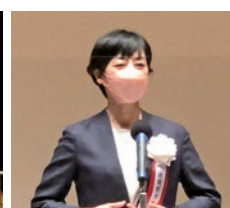
ただきたい。次に全国のシルバー人材センターの会員数の減少が続いています。その要因を昨年の新聞が記事のなかで次のように解析しています。

**企業の定年延長・再雇用制度の拡充やコロナ禍での高齢者の外出控え。会員の希望する仕事と現実のミスマッチや収入の物足りなさ。また「シルバー」という言葉のマイナスイメージなどを挙げています。当センターも同様の傾向があり2011年に1,242人であった会員数が現在では1,100人を下回っています。**

次に当センターの今年度の重点課題であります。会員数が減少している中「魅力あるシルバー人材センターを目指して」というスローガンで各種取組みを行なっていますが、様々な要因で取組みが停滞している事実があります。そのなかで今年度のメインテーマは「地区活動の強化(地区の活性化)」です。

- ①センター事業発信:センター事業を各地区にアピールし、地域の高齢者に広く参加(入会)を勧める。
- ②就業開拓の推進:地域内で新規就業先を開拓するための取組みを進める。
- ③会員とセンター間のコミュニケーション活性化:会員と理事、地区長、班長副班長、事務局間で意見交換の場を設けるなど連帯感を生みだす取組みを進める。
- ④会員相互の交流・情報交換:機会を設け、仲間づくりを進める。

以上の方策を進めるなかで、7月よりブロック理事と地区長間での定期的な会合を予定。各地区で課題の設定、課題に関してはすぐにできる課題を選定し一步一步確実に対処して行きます。そのためには理事も活動に積極的に関与し会員皆様の協力を仰ぎ課題を解決して行きたいと考えております。



## よろしくお願いします

## 新任役員・理事のみなさん

新理事  
内田 成子

この度、理事に選任されました内田成子と申します。第3ブロック（吉祥寺北町・緑町）を担当させていただきます。ちょっとしたきっかけでシルバー人材センターに入会しまして、丸8年が経ちました。その間、市報配布、家事援助、子育て支援等のお仕事をさせていただき、生活の張りの良い仲間を得ることが出来ました。皆様にも、当センターの会員になって良かった、と思っていただける様、微力ながらお役に立てるように努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

新理事  
内田 眞一

このたび第2ブロック（本町・御殿山・中町）の理事に就任することになりました内田眞一です。7年前に会員となり、主に「ふれあい訪問収集」の事務処理を担当してきました。

シルバー人材センターは高齢化社会を支える非常に重要で大きなインフラです。高齢者の健康と活力を向上し、より一層いきいきとした地域社会を実現するために、当センターの果たす役割は非常に大きいと考えます。まだ分からないことばかりですが、当センターのより一層の発展のために微力を尽くしたいと思いますのでよろしくお願いします。

新理事  
納堂 誠

このたび第4ブロック（西久保、八幡町）の理事に再度ご推挙いただきました納堂誠と申します。2年前に新任理事となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により地区における活動が殆ど出来ない状況でした。

コロナも収束に向かうだろう今後は地区の活性化に少しでもお役に立てるよう尽力する所存です。

生まれ育ち緑豊かで大好きな武蔵野市のシルバー人材センターで、小生は市報配布など楽しく健康的に就業させて頂いております。魅力あるセンターづくりを目指し、会員の皆様全員が楽しく就業出来るようお手伝いをさせていただきたく、よろしくお願いいたします。

新理事  
船山 五郎

この度、第6ブロック（境・境南）の理事にご推薦いただきました。私は、平成27年6月から平成29年6月まで、一期2年理事を務めさせていただきました。その経験から、少しでもシルバー人材センターの向上に、微力ですが努めていけたらと思う次第です。近年、益々当センターの必要性も高くなってきて、コロナ禍という世の中になり、仕事の内容も様々になってまいりました。その様な社会の必要性に対応できるような場になればと感じます。高齢化社会にあって、当センターの存在は、益々大きな立場になっていくことと思う次第です。

新理事  
山田 剛

先日の令和4年度定時社員総会におきまして、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターの役員に再任されました武蔵野市健康福祉部長の山田と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

昨年度は長年の課題であった事務所の移転について、会員の皆様のご理解もいただきながら実現することができました。今後ともシルバー人材センターのさらなる発展に向けて微力ながらも尽くす所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新常務理事  
事務局長  
中村 京子

本年4月に、事務局長を拝命いたしました中村京子です。前任者同様よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの影響がなかなか終息の兆しを見せない中、日々感染リスクと向き合いながら地域でさまざま活躍されているみなさまに心からお礼申し上げます。微力ではございますが、みなさまの安全・安心な就業をバックアップできますよう、事務局をあげて精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

## 新広報編集委員あいさつ



広報編集委員長  
加藤 伴子

皆さま、こんにちは。今回、広報編集委員会の委員長になりました、八幡町の加藤伴子です。広報編集委員会では、委員会の皆さまに支えて頂き委員長を2年、昨年は副委員長、今回は委員長に就任いたしました。

委員会は男性4名、女性3名全7名の会員で構成されています。

これからも仲良く、楽しい広報編集委員会で会報誌、「絆」発行していきます。

年2回の発行となりましたが、これからも、皆さまのご協力、応援をよろしくお願い申し上げます。



広報編集副委員長  
内田 成子

はじめまして。

この度、広報編集委員会の副委員長をおおせつかりました。

広報編集に関しましては、知識も経験もまったくございません。あるのは不安のみです。ゼロからのスタートですので、これから委員の皆様にご教養いただきながら少しずつ成長していけたらと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。



広報編集委員  
神谷 竜彦

一昨年会社勤めを終了し、今年2月にシルバー人材センター会員に加えていただいたばかりです。

まだ昭和の終わり近くに、小平にある学校を卒業し23区内に就職をしたことを機に、より都内に近いからという理由で武蔵野市に移り住んできました。以来、本町～中町～東町と住みついております。

会社時代の業務として、会報誌や社内報をはじめカレンダーから通販カタログに至るまでさまざまな印刷物制作に多く関わってきましたので、多少なりともお役に立てればと、こちらの会報誌制作チームに加わらせていただくことになりました。

ここ数年のご時世で皆さまの間でもフェイスtoフェイスのコミュニケーションがなかなか取りにくくなっておりますので、情報提供・共有など、会報誌・広報編集委員の持つ役割もますます大事になってきています。新しいコミュニケーションのためのツールとなれますよう頭を絞っていこうと思います。一方、個人的には現役中にため込んだ25本ほどのギター君たちのメンテナンスや修理やお世話に忙殺される日々です。

これからもよろしくお願い致します。



広報編集委員  
梅津 通郎

私は母のおかげで新聞好きの少年になりました。貧しい農家でしたが『岩手日報』という新聞が毎日ありました。厳しい野良仕事の日を終えた夜のひと時、母親は熱心に読みふけるのでした。とりわけ連載の新聞小説を楽しみにしている様子。母を楽しませてくれる新聞を私は好きになりました。そして、学校生活。誰もが子どもの頃、学級新聞や学校新聞や社会科新聞など、様々な新聞づくりに興じたに違いありません。私もその一人でした。周りの人に喜んで読んでもらえた時本当にうれしかったなと今でも思い出します。その時、私には母を楽しませてくれた新聞への思いがありました。

新聞は皆に情報を提供する。しかも、いち早く、事実と正確さを生命として、更には、読者の気持ちを引き付けるよう、見出しや順序など様々な工夫を大事にして、と言われます。この新聞づくりの精神は会報誌「絆」づくりにも通じるのでは、と思いを新たにしています。

新聞好きを語る自己紹介に始まりましたが新聞の精神と会報誌「絆」の繋がりを大切にしながら仕事に励みたいと思います。ご指導、ご支援のほどよろしくお願い致します。





## 就業のビフォー・アフター、フォローします!

研修委員会

入会を考えている方々を対象に募集活動をしている研修委員会の委員長以下4名の委員にお話を伺いました。

### ——研修委員会はどのような活動をされているのでしょうか?

毎月1回の委員会活動と入会説明会、また入会された人数によっては新入会員の就業相談会を毎月初旬の2、3日に分けて開催しています。そのほかに出張入会説明会を市内東部会場と西部会場にて年に2回開催しています。

### ——コロナ禍にあって今までと活動内容が違ってきたことはありますか?

会場づくりの上で、席の間隔を今まで以上に空けたり、たまには椅子だけ並べて行なったり、かつては沢山の方がいらっしゃっていたのですが今は1回あたり20人に人数制限をさせてもらっています。

場所もシルバー人材センターの会議室(西久保)を使っていますので、20人でもいっぱい입니다。それに加えて会場で検温や消毒など説明以外のことにも徹底して気を使っています。

### ——どのような説明会をなさっているのですか?

シルバー世代でもさまざまな年代の方がいらっしゃって入会された後のギャップなどもありますので、入会説明会という入り口のところでもありますし、まさに「概要」を説明して気をつけていただきたい点や「自主自立」と言うことをわかっていただきたいと思っています。シルバーの最大の目的は地域貢献であり、単に「職業紹介」ではないです、というところをわかっていただけるように気をつけています。

また、今では新入会員の方にフォローアップということで、就業相談会としてひとりあたり30分の個人面談も行なっています。

これは最初から行なわれていたわけではなく、やはり当初はよくわからないで入会してきたけれどすぐに仕事がしたい方、仕事を選びたい方たちが多くいらっしゃったので、そういった方たちもキチンと就業できるようにフォローをして差しあげることによって数年前から行なうようになりました。

やはり対面でお話できるとお互い打ち解けやすくなって、印象も良くなり、その人により合った仕事を紹介しやすくなります。それが良い結果につな

がっていると思われます。

また、西久保の事務所内で行ないますので、それぞれの仕事の担当者さんも近くにおり、必要に応じてそれぞれの仕事についてより詳しい説明をお聞きいただけるという利点もあります。

### ——説明会で大変なことなどありましたら教えてくださいませんか?

まず、毎回説明会の前に資料をちゃんと揃えておくのですが、毎年内容が少しずつ変わってきていることもありますので、手直ししながら準備しています。

そのほかにも、最近はコロナ禍で中止になっていますが、会員向けの講習会を年に1~2回企画したり、班長・副班長の方々を集めてさまざまな勉強会の開催もしておりました。マナー講習なども行なって就業後のアフターフォローも事務局と相談しながら行なっていました。

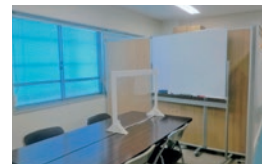
また、説明役を交代の持ち回りでやっていますが、壇上に立って人前で話すことが得意でない委員も毎回緊張しながら頑張っています(笑)

### ——今後はどのように活動をしていく予定でしょうか?

せっかく入会していただいたので、みなさんになるべく早く希望に叶うようなお仕事についていただきたいと思いながらこちらの活動をしています。相談者の方々がみなさんお帰りになるときにニコリ笑って帰られると「今日はよかったね」という気持ちになりますね。

やはりみなさん、人生60年以上送ってきた方々でもあり、ひとりひとり違いますので、単に紹介ということではなく、それぞれの個性を汲んでフォローしてあげることが大事なのだと思います。



**突撃レポート  
現場へ****—私の就業体験記  
補習教室の巻—**

武蔵野市シルバー人材センターの事業の一つに、少人数で基礎学力を養う小・中学生のための補習教室があります。市内に3教室ありますが1979年4月発足という歴史ある教室です。その教室に現在18人の方々が携わっておりますが、代表して各教室リーダーの3人の皆さんにインタビューしました。



西敏子さん  
(吉祥寺教室)



古川伸一さん  
(西久保教室)



柴田潔さん  
(桜堤教室)

**——活動を始められたキッカケ、動機についてお聞かせください。**

**西さん** シルバー人材センターの説明会を聞いて講師登録。長い海外生活の経験後、日本語教師の資格を取り日本語指導を行っています。この教室では昨年4月より国語を担当。

**古川さん** 以前より教えることに興味・関心を持っていたし、中学の頃より数学が好きでした。算数・数学を担当。

**柴田さん** 大学受験の指導や私塾の経験を基に当初より補習教室での指導を望んでいました。

**——活動の様子をお聞かせください。**

**古川さん** 週2回中学生の数学を担当。しかし、中学生ともなると部活動などがあって時間に制約が出て来るため中学生ならではの生活パターンに合わせる活動になります。

**柴田さん** 小学生も、中学生も見えていて、週に3日程出ます。ピンチヒッターで他の教室に出向くこともあります。

**西さん** 小学生の3年、4年、5年と中学2年生の国語を担当。学年の違う児童や学力に差のある生徒を同時に教えるのは進度の違いもあって苦労しています。大変なことと言えば、私の注意に言い返しもあり、その繰り返しもあってなかなか賑やかになることもあります。

**——大変なことや苦労されていることはありますか？**

**古川さん** 前にも述べましたが、中学生なりの生活パターンに合わせるという時間の問題があります。

**西さん** 子どもは様々です。教師に対してもフレンドリーに何でも話してくれるものの、反面、教師に対するリスペクトはないにも等しいと感じています。そこら辺への対応には苦慮しています。

**柴田さん** 特にありませんが、敢えて言えば、その子のためになる、その子独自のテキスト作りかな。

**——この仕事で気を付けていることはどのようなことでしょうか？**

**全員** みんな共通して、「その子のためにどうしたらいいか」と絶えず気に掛けることですね。

**——嬉しいこと、やりがいは？**

**西さん** やる気を起こさせる、その方向で指導して、実現できれば、やりがいを感じます。子どもが本気になってくれると本当にうれしい。

**古川さん** 子どもから頼られると嬉しい。終わるときに、「先生もう一つでいいから教えて」とお願いされた時など、嬉しくなりますね。

**柴田さん** 私も古川さんと同じですね。それから、歳をとっての人生経験と言いますか、教えているつもりが逆に教わっているなど感じる時ですね。

**全員** 補習教室は復習を大事にし、反復、繰り返し、基礎を養う。それが少人数で実現できる教えの場。そこで仕事ができるのは大きな喜び。このような補習教室の存在を会員の皆様に知っていただき、お孫さんや知り合いのお子さんと保護者の方に是非教えてあげてください。

ありがとうございました。1～3人と少人数の利点を生かし、いつも子どもに寄りそってのご活躍のお話から教育愛、子ども愛、人間愛をしみじみと感じさせられました。まさに、教育は人なり、という古くからの言葉そのものだと思いました。

このような補習教室のあることが嬉しくもあり、誇りにも思いました。

(聞き手 梅津編集委員)

**【概要】**

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 仕事の内容 | 小学生(3～6年、80分)、中学生(1～3年、90分)を対象とした補習教室 |
| 仕事の場所 | 吉祥寺、西久保、桜堤の3教室                        |
| 仕事の時間 | 概ね月～金の16:30～19:30                     |
| 就業の人数 | 18人                                   |
| 事務局担当 | 久保田                                   |



# 私のふるさと 第31回

—— 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂 ——

吉祥寺北町  
山本 哲朗 会員



その街は夏になると人口が2倍以上に膨れ上がる。真っ青な空と海、弓なりの白い浜辺に観光客が溢れる。川沿いの温泉街には湯煙が立ちのぼり、浴衣姿でそぞろ歩きの人並がゆったり行き交う。伊豆半島最南端の街の思い出を山本哲朗さんに伺いました。

**山本：**私が高校卒業まで過ごしたのは“温暖な気候と風光明媚”が売りの典型的な観光地でした。黒船来航で知られる下田に隣接した街にはこれといった産業はなく半農半漁の世帯がほとんどでした。生家は青野川沿い温泉旅館向かいの洋品店です。店は祖母と母が営んでおり、父は教師でした。3人兄弟の長男として育ち、幼少時から簡単な田畑作業を手伝いましたが、それ以外のほとんどの時を川や海で泳いだり、野球やビー玉、メンコ等で遊んでいました。小さい頃から私は母の実家で過ごすことが好きでした。里山風の自然の中で生活できる開放感があったのでしょう。夏休みや冬休みになると、1週間以上も長逗留して、父が迎えに来ることもありました。小学校の頃、祖母に連れられて下田の食堂で食べたハンバーグステーキがなんと美味しかったとか、今でも忘れられません。写真1はその頃、



写真1

下田の写真館で弟と一緒に撮った七五三の記念のもの。

中学時代は軟式テニスに熱中し、練習の一環として定期的に行なった長距離ランニングが体力と気力を鍛えてくれたと思います。全校マラソン大会で3位になったことが印象に残っています。

高校は1879年創立の県立下田北高等学校に進学しました。下田の奥座敷的な立地の蓮台寺というところにあり、家から約1時間バスで通いました。クラブは生物研究部に所属しました。

高校時代の出来事はある冬の朝起きると、あたり一面が銀世界の雪景色になっていたことです。生まれて初めての体験で強烈な印象として残っています。

母の実家が農家でしたからミカン・カキ・ビワ・ヤマモモ等の果物や野菜には不自由せず、父に連れて行ってもらった磯釣りでは、ブダイ・クロダイ・

カサゴ・イサキ・アジ等の魚や、川ではアユや手長エビが捕れました。釣りたてのアジの刺身や捕れたての手長エビの天ぷらは本当に美味しかったな。地元では家に温泉を引いているところも多く、茹で卵は、源泉に浸しておくだけで簡単にできます。日程左様に温泉が生活に密着していたわけですね。

★海の幸・山の幸が豊富で美味しいものを食べ、自然の中で思い切り体を動かしてお育ちになった。下賀茂には熱帯植物園がありますね。そういう経緯がいまのお仕事に繋がったのでしょうか？

**山本：**それは多分にあると思います。母の実家で過ごした里山風景の懐かしさが根本にあり、武蔵野市の緑ボランティアの一つである“生きものばんざいクラブ”に入り、木の花小路公園を活動拠点として公園の清掃活動・草花の育成管理等を行っていたのが、私のシルバー人材センターで緑化班の仕事に就いたきっかけですね。最初は緑化班の仕事がきつかったですが、今では毎日の健康維持と、きれいになった公園を見ると成果が実感できますし、公園に遊びに来る保育園児達や近隣住民との挨拶や触れ合いの中に幸福感を味わっています。

太陽をいっぱい浴びてすくすく伸びた少年の面影が感じられる風貌の山本さんです。

伊豆は源頼朝ゆかりの地でもあり、現在放送中のNHK大河ドラマでは三ツ観光案内をしています。山本さんが高校時代通われた蓮台寺のお寺紹介を先日観ました。夏休みにちょっと南伊豆へ行ってみませんか？その際はくれぐれも車では行かないように。大渋滞に巻き込まれてしまいます。  
(聞き手 高山編集委員)





## リレー・エッセイ

### 我が家のTV出演

吉祥寺南町 前田 義弘

神奈川県平塚市から2017年末に武蔵野市に引っ越してきました。妻の母の家に同居する形で来た故、平塚の家は家具、食器、カーテン等々そのままの状態が残ってきたのです。さて、平塚の家どうしようかと知り合いの不動産屋に相談したところTVのロケ地を制作会社に紹介する会社につないでくれて、我が家をロケ現場として登録してくれました。まあ、普通の一軒家(敷地面積34坪、建坪30坪、築20年超)なので使ってくれるのか半信半疑でしたが。ようやく2019年の7月にTVドラマの現場となることが決まりました。なんと、フジテレビ、全国放送、「監察医 朝顔」。撮影日当日、見に行きました。ご近所の人でいっぱいの中、主役の上野樹里ちゃん、時任三郎さん、等々、そうそうたる俳優陣が我が家に。なお、ドラマの内容はDVの旦那を

奥さんがリビングで絞め殺し、奥さんも罪の意識からリビングのドアノブにひもをかけて自殺をする凄惨な現場でしたけど。その後、「ザ・世界仰天ニュース」では拒食症の娘さんに餃子をリビングにぶちまけられ、「ハラスメントゲーム」では奥さんに逃げられた副店長のゴミ屋敷になり、「すぐ死ぬんだから」では酒屋さんの店を抜けると我が家のリビングにつながるといふ不思議な家となり。その他、使っていた固定資産税は自分で稼ぐ孝行娘になりました。



## 私のチャレンジ教室

### 自分のためのギターテック

ギターテック(guitar tech)と呼ばれる人たちがいます。ギターを弾く人ではなく、片手でギターを押さえもう片方の手にドライバーやハンダゴテなどを持ち、弦の張り替えやチューニングから弦高やネックの仕込み角度の調整などギターがベストな状態、弾き手の好みの状態に仕上げる仕事です。

私も年齢を重ねる中で多くのギターを所有して弾いてきましたが、本数が増えれば増えるほどメンテナンスが大変になり、ギターに年季が入れば入るほど音も良くなりますが手もかかるようになります。そんな時必要になるのがギターテックの知識です。

かつて70年代ぐらいまではこういった専門職〇〇テックやリペアマンなどはほとんどいませんでした。そこでアマチュアはもちろんプロミュージシャンでも自分でその技術を勉強して自分でなんとかする、という人がほとんどだったと思います。私もそのひとりです。

先輩ミュージシャンから教えられたほぼ伝説みたいなワザからこういった技術の歴史があるアメリカの情報～昔はビデオやyoutubeなんてありませんでしたのでほとんど専門雑誌ぐらい、しかも英語版を取り寄せて参考にし、なんとか自分の楽器のメンテナンスぐらいはできるようになりました。かつては仲

吉祥寺東町 神谷 竜彦

間の分まで面倒を見たこともありましたが、そのうちプロのギターテックやリペアマンがたくさん出てきましたので、有料ですがそちらの方をお勧めしました。未だに自分の他3人ほど仲間のギターの面倒は見ていますが。

写真のギターは1935年ごろに作られたシルバー世代の、Kalamazoo製(有名なGibson社のセカンドブランド)KG-11 Carson J Robisonモデルです。安価な普及版ですが適切なメンテナンスを施せば今でも現役どころか益々いい音で鳴ってくれます。



## 手芸小物班

## むさしのタワーズマルシェに初出店

(三鷹駅北口タワーズマンション南側)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため休止されていた、むさしのタワーズマルシェが、5月28日(土)に2年振りに開催されました。当日は、暑いくらいの晴天に恵まれ、26出店者のなか、手芸小物班が初出店しました。



## 交流会

交流会検討会では、新たな交流会の計画は休止していますが、再開に向け、5月11日(水)に武蔵野市立吉祥寺美術館(コピス吉祥寺A館7F)→都立井の頭恩賜公園(井の頭自然文化園)の散策にでかけ、少しずつ準備をすすめています。

## 編集後記

先日、あるコンサルティング系の会社の方とオンラインで打ち合わせを持ちました。その際、筆者よりその方に現在その会社での勤務状況をお聞きしました。週5日のうちでオンラインでの業務が週3日、出社での業務が2日、それが平均的な社員の働き方だそうです。筆者が会社勤めをしていた頃は、当然毎日会社に出ることが当たり前でした。しかも残業の毎日でした。この2年半のコロナ禍で仕事の行なわれ方がすっかり変わってしまったようです。もちろん仕事柄によっては、リアルに出勤をされている方も多数おられるでしょう。シルバーでの仕事もリアルな現場での仕事が多いです。われら武蔵野市シルバー人材センターの当広報編集委員会は1度だけオンラインで会議をしましたが、基本はリアルに顔を合わせての業務遂行であります。この先世の中での働き方が以前とは異なることに間違いなくなっていくでしょう。シルバー人材センターの働き方はどうなるのでしょうか。議論し考えていかなければならない問題だと思う次第であります。(ME)